

謹んで「平成30年7月豪雨」による災害のお見舞いを申し上げます。

三次市民ホールも浸水被害を受けましたが、業者の方々・ボランティアの皆様のご支援により7月16日から開館することが出来ました。ご支援頂きました皆様に感謝申し上げます。また被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧をされます様お祈り申し上げます。

現場力が救った

三次市民ホールきりりの奇跡



外観撮影：7月7日12時頃



地下動力室撮影：7月7日15時

2018年7月5日から降り始めた雨は7月6日豪雨となり7月7日未明まで続いた。三次市民ホールきりりは最大1.7mまで冠水し7月7日午後3時頃に水が引いた。本来避難場所に指定されていた施設ではないが周辺の道路が浸水し指定避難場所に避難できない方のために三次市と協議して、緊急避難所として開放した。一旦帰宅した社員を召集し、三次市教育委員会の指示の下で救済にあった。

三次市民ホールきりりのグランド面の下に地下室があり、地下室には配電盤・空調設備・給水ポンプが設置されている。地下室の下に排水路があり三次市民ホールきりりの敷地内の雨水はこの排水路から放出する構造になっている。この地下室のマンホールの蓋をきりりのスタッフが浸水前に外していた。この行為が地下室に入った汚水を排水路に流し、地下室にある機器を損傷させなかった一因である。

また三次市民ホールきりりの地下室のドアはパッキングされており流水を防ぐ効果も立証された。動力が停止しなかったことで避難者に大きな負担を掛けずすみ無事に帰宅を見送ることが出来た。

今回注目したいのは「現場力」です。急遽避難場所として開放した判断・マンホールの蓋を開けた行動・現場に駆け付け災害対策本部と連絡を取られた教育委員会の方。現場の状況に基づく判断や行動が早期開館に繋がりました。1カ月経過した現在、夏休みの子供たちのイベントや中高生達の吹奏楽などが活発に行われています。

成人式も戦没者追悼式も正常に行われます。普段気付かない事かも知れませんが「現場力」が救った奇跡だと思います。